

令和6年度 総合教育会議について

企画総務委員会資料
令和6年9月25日
総務部総務課

1 令和6年度総合教育会議の内容（令和6年7月11日実施）

- (1) 令和5年度総合教育会議 「スポーツや文化芸術など生涯学習社会をめざした部活動の地域移行」の進捗報告（別紙1）
- (2) 「板橋区教育大綱の改定等に関する協議」①プレゼンテーション「現行の板橋区教育大綱の成果」（別紙2） ②意見交換

2 主な意見（概要）

（詳細は参考資料のとおり）

【区長】協議の主旨

「子どもたちを取り巻く環境」、また、「義務教育学校のあり方」など、教育行政には大きな変化が起こっており、新たな「板橋区基本構想」と「板橋区基本計画」の策定にあわせ、平成28年1月に策定した「板橋区教育大綱」を改定する必要がある。そこで、今年度と来年度の板橋区総合教育会議で、令和8年度からの施行を見据えた教育大綱の改定について、協議を行う。

【区長】「ウェルビーイングの実現と教育行政システムのグレート・リセットについて」

子どもたちが、ウェルビーイングを実現しながら、自分の人生をしっかりと歩み、社会的自立を果たせるようになるためには、義務教育学校のあるべき姿が、時代に合わせて変化をしていく必要がある。また、学校以外でも、社会を生き抜くために必要な力を蓄える経験を得る機会や場の提供が、子どものウェルビーイングの実現に重要である。従来の価値観や考え方を、一度リセットして取り組む「グレート・リセット」の視点で、板橋区の教育、学術及び文化の振興に関する新たな方向性を示していく。

【教育委員】

○「まちや地域への愛着を育むことの重要性について」

不登校児童の増加など、学校生活で困難を抱えている子どもが増えていることを踏まえ、安心・安全に過ごせる居場所づくりを板橋区は進めているが、人材の確保が問題となっており、地域の方々の支援を充実させていく必要がある。子どもの学びや成長を支える人や環境の充実を図ることが、将来の板橋区を見据えた際に重要な取組である。

○「教育のDXについての現状、課題について」

1人1台端末で、小・中学生は情報活用能力が上がっている状況だが、情報モラル教育を徹底することが必要である。また、便利・効率化だけではなく、学校において、集団での学びが損なわれないように、教育のDXを推進することが、教育活動の基盤を充実させ、さらには、ウェルビーイングの実現につながる。

○「多様な居場所づくりとコミュニティ・スクールについて」

教育的ニーズにきめ細かく対応した居場所を作り、誰一人取り残さない支援を行うことが「子どものウェルビーイング」につながる。また、コミュニティ・スクールを通じて保護者や地域の人がつながり、一体となって、より良い学校づくりを進めることが「家庭や地域のウェルビーイング」の向上に寄与する。

○「子ども一人ひとりの発達段階、特性、興味関心に応じた学びについて」

「子どものウェルビーイング」を実現するには、子どもが社会に出て自立する力を身につけることが必要である。学びが苦しいものではなく、失敗を恐れずに、安心してチャレンジできるようになるために、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた良さや可能性を引き出し、伸ばす学びを推進していくことが肝要である。また、教員が本来業務に集中できる環境を作り、「教員のウェルビーイング」の実現も大切である。

【教育長】「多様なニーズに応える教育行政の推進について」

教育は「人が幸せに生きるためにある」と考えており、一人ひとりの幸せを実現するには、多様な学びの機会や方法を提供することが重要である。そこで、①「子ども一人ひとりの良さや可能性を引き出し、伸ばす学びを推進する」、②「子どもの学びや成長を支える人や環境を充実させる」、③「生涯にわたり、学び支え合う教育を推進する」、④「教育活動を支えるための基盤を作る」、といった取組を区、教育委員会と共有しながら、これからの10年に向け、教育行政を進めていきたい。

3 会議のまとめ

今回の会議で共有した区の教育行政全般に対する課題、方向性、考え方について確認して、議論の内容をよく整理し、それを踏まえて、随時、教育委員会と連携を取りながら検討を深め、次期教育大綱の骨子案を作成する。

4 総合教育会議・板橋区教育大綱について

(1)総合教育会議

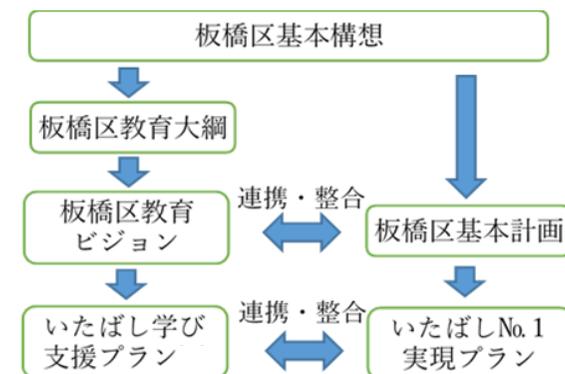
教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、区長との連携強化を図るために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「地教行法」という。）第1条の4第1項の規定に基づき設置した会議体であり、区長、教育委員会（教育長、教育委員4名）で構成されている。協議事項は、①教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（教育大綱）の策定（地教行法第1条の3）、②教育の条件整備など重点的に講ずべき施策（同法第1条の4第1項）、③児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置（同法第1条の4第2項）である。

(2)現行の板橋区教育大綱（平成28年1月策定）

“学びのまち”「教育の板橋」の実現に向けた、板橋区の教育施策の方向性を示す。

5 今後のスケジュール（予定）

- ・令和7（2025）年 5月 総合教育会議
（次期教育大綱策定方針、骨子案）
- ・令和7（2025）年 11月 総合教育会議
（次期教育大綱素案）
- ・令和8（2026）年 3月 次期教育大綱策定・公表



令和5年度板橋区総合教育会議 協議事項の進捗状況について

1 協議事項

「スポーツや文化芸術など生涯学習社会を目指した部活動の地域移行」

2 協議のまとめ

区立中学校の部活動が果たす大切な役割や意義を継承しつつ発展させながら、生徒の活動機会の持続可能性を維持するためには、地域における生涯スポーツ社会・生涯学習社会につながる、新しい価値を生み出していくことが重要である。

そのため、引き続き、生徒にスポーツ、文化芸術活動を通じた成長機会が提供できるよう、保護者や地域の理解を得ながら、教育委員会と区長部局がより緊密に連携・協働し、部活動の地域移行に向けた取組への検討を深めていく。

3 「部活動の地域移行」に係る取組

令和5年度

(1)「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン 2030」「同実施計画 2025」の策定

中学生の持続可能な新たな活動の場をめざして、めざす将来像を設定するビジョン及び国の改革推進期間である令和7年度(2025年度)までの2年間に実施する取組を掲載した実施計画を策定した。

- ① 板橋区立中学校部活動地域移行検討会議の開催(全4回)
- ② 板橋区立中学校部活動アンケート調査の実施(対象:教員、生徒、保護者)

(2)実践研究モデル事業「いたばし地域クラブ」を実施

運営団体:板橋区教育委員会

クラブ	会員数・活動回数	活動状況等
女子サッカー	13人・44回	・「WEリーグカップ」の観戦(8/27) ・「中学校女子サッカーフェスティバル」に参加し、対外試合を実施(10/21) ・「スマイルプロジェクト2023」に参加し、対外試合を実施(3/9)
eスポーツ	25人・43回	・クラブ内で大会を実施(8/23、1/21) ・クラーク国際記念高校で高校生とともに活動
ロボット数学 (旧:科学技術)	16人・121回	・タニタと凸版印刷の企業見学を実施(8/8、8/10)

(会員数は令和6年3月末時点)

- ① 「いたばし地域クラブ体験会(小学6年生対象)」の実施(2月)
- ② 「魅力発信!いたばしナビ」での周知(3月)
- (3)「板橋区立中学校部活動地域移行協議会」の開催

スポーツ、文化芸術関係者、青少年健全育成関係者、保護者等との意見交換を実施

	開催日	延べ参加人数
第1回	7月27日、28日 8月 1日	47名 (オンライン参加 18名含む)
第2回	12月15日、19日	28名 (オンライン参加 12名含む)

- (4)「区立中学校部活動地域移行に関する保護者説明会(小学生の保護者対象)」の開催
開催日 1月19日 (オンライン開催)
参加者 約90名

令和6年度

- (1)いたばし地域クラブに「サイエンスクラブ」の活動を開始(4クラブ目)
志村第四中学校 (5/22) 教育科学館 (5/24)
- (2)部活動地域移行シンポジウム(8月下旬開催予定)
- (3)部活動指導員の増員(44人配置予定)
- (4)総合型地域スポーツクラブ「プリムラ」と地域クラブ活動に関する連携を開始
※スポーツ振興課と連携事業
- (5)広報いたばし特集号「いたばし地域クラブ本格始動」発行 (6/8)

別紙2

板橋区教育大綱の成果

令和6年度総合教育会議

令和6年7月11日

板橋区教育大綱

大綱策定にあたって

板橋区教育大綱は、板橋区基本構想における将来像の「未来をはぐむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」を実現するため、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ施策における方向性を示すものです。

教育分野における概ね 10 年後のあるべき姿は、魅力ある学校づくりが進み、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちのたくましく生きる力が育まれ、生涯を通じて学び、教えあう環境が整い、「ひと」と「ひと」、「ひと」と「まち」をつなぐコミュニティが形成されていることと考えています。

私は、「板橋で学び地域を愛し、ふるさと板橋を大切に子どもになってほしい。たとえ、大人になり、ふるさとから離れても板橋を想い続ける人になってほしい。」と強く願っており、郷土愛を育む施策が重要であると考えています。

この「大綱」に沿って教育委員会と密接な連携のもと、子どもたちがいきいきと学び、区民があたたかい気持ちで支えあう元気なまちづくりに取り組んでまいります。

“学びのまち”「教育の板橋」の実現に向けて

【これからの社会を生き抜く力の育成】

- 多様で変化の激しい社会では、基礎学力とともに、自ら考え、主体的・能動的に行動する力や協働して課題に取り組み、粘り強く解決に導く能力が必要です。また、規範意識、社会性、支え合い、思いやり、もてなし等の豊かな心を育み、体力向上や心と体の健康づくりに取り組むことも重要です。そのために、子どもたちの「知」「徳」「体」の調和のとれた「生きる力」を学校・家庭・地域が連携して、地域社会をあげて育みます。
- 子どもたち一人ひとりの個性を認め合い、自己肯定感を高め、長所を伸ばして自信につなげます。これまでの「教える」から「支える」に軸足を移して、子どもたちの自立を促すとともに、キャリア教育等を通じて社会で必要となる能力や意欲を育み、失敗しても再チャレンジする人づくりを進めます。

【子どもの学びを保障する教育環境の確保】

- すべての子どもたちへの学びの機会を確保するとともに、家庭の経済状態や障がいの有無等によらない、質の高い教育を受けられる環境の整備を進めます

- 小中一貫教育の推進などにより、学校不適應の問題についても改善を図ります。また、いじめの早期発見、早期解決に努め、関係機関と連携し、いじめ問題に取り組みます。
- 教育支援センターを活用し、教職員の資質と指導力を向上させ、「学ぶのが楽しい」「よく分かる」授業への改善を推進します。
- 安心・安全で魅力ある学校施設の整備を計画的に行います。

【幼児教育の推進】

- 未来を担う子どもたちの感性や協調性、粘り強さなどの能力を育むため、幼児期から文化・スポーツに取り組む教育を推進します。
- 就学前の子どもたちを滑らかに小学校へつなげることが重要です。家庭における生活習慣をしっかり身につけ、遊びを通しての子どもの育ちや学びの連続性を踏まえて、保育園や幼稚園での教育の充実を図っていきます。

【地域と共に学び合う教育の推進】

- 区民の学び続けたいという願いに応えるために、生涯学習社会へ向けた支援を充実させ、地域と家庭の教育力の向上をめざします。
- 板橋区には、各地域に子どもたちが必要とする多様な資質・能力をもった方々がいます。そうした方々に参画していただけるしくみをつくり、地域の教育力向上に努め、「地域が支える教育の板橋」を実践します。
- 地域の人々が、結びつきを強め、地域の課題に積極的に取り組むことにより、コミュニティの活性化が図られるよう、施設整備を含めた生涯学習環境を計画的に整備していきます。

【文化・スポーツの推進】

- 文化財や伝統芸能を保存・継承し、広く区民に伝え、郷土板橋への愛着と誇りを深めます。
- 生涯にわたっての健康で豊かな心を育むため、体験活動や文化・スポーツに触れ合う機会を大切にします。
- 板橋区スポーツ推進ビジョン 2025 や板橋区文化芸術振興基本計画 2020 と緊密な連携をとって教育の施策に取り組みます。とくに、文化・スポーツ、体験的学びを通じて、青少年の健全育成を図ります。

平成 28 年 1 月 8 日

板橋区長

坂本 健

現教育大綱の主な成果 1

【これからの社会を生き抜く力の育成】

- 多様で変化の激しい社会では、基礎学力とともに、自ら考え、主体的・能動的に行動する力や協働して課題に取り組み、粘り強く解決に導く能力が必要です。また、規範意識、社会性、支え合い、思いやり、もてなし等の豊かな心を育み、体力向上や心と体の健康づくりに取り組むことも重要です。そのために、子どもたちの「知」「徳」「体」の調和のとれた「生きる力」を学校・家庭・地域が連携して、地域社会をあげて育みます。
- 子どもたち一人ひとりの個性を認め合い、自己肯定感を高め、長所を伸ばして自信につなげます。これまでの「教える」から「支える」に軸足を移して、子どもたちの自立を促すとともに、キャリア教育等を通じて社会で必要となる能力や意欲を育み、失敗しても再チャレンジする人づくりを進めます。

主な成果

- ・子ども動物園リニューアルオープン（キッズデザイン賞受賞）
- ・「板橋区授業スタンダード」「読み解く力の育成」を柱に授業革新に取り組み学力学習状況調査結果が向上
- ・GIGAスクール構想に基づき、一人一台端末、高速大容量通信ネットワーク等を整備
- ・4歳から9年生までの11年間を通じた環境教育に取り組み、ユネスコスクールに7校が加盟
- ・12年間（小・中・高段階）を見通したキャリア形成を推進

現教育大綱の主な成果 2

【子どもの学びを保障する教育環境の確保】

- すべての子どもたちへの学びの機会を確保するとともに、家庭の経済状態や障がいの有無等によらない、質の高い教育を受けられる環境の整備を進めます。
- 小中一貫教育の推進などにより、学校不適應の問題についても改善を図ります。また、いじめの早期発見、早期解決に努め、関係機関と連携し、いじめ問題に取り組みます。
- 教育支援センターを活用し、教職員の資質と指導力を向上させ、「学ぶのが楽しい」「よく分かる」授業への改善を推進します。
- 安心・安全で魅力ある学校施設の整備を計画的に行います。

主な成果

- ・子ども家庭総合支援センター開設
- ・「STEP UP教室（特別支援室）」を全区立小中学校に設置
- ・全区立小中学校に教室以外の居場所を設置。
- ・中高生・若者の活動や学習支援の場、居場所「i-youth」を運営
- ・近隣の小中学校で学びのエリアを設定し、9年間を見通した取組を推進
- ・放課後の居場所「あいキッズ」を運営
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門職を配置し相談・支援体制を整備

現教育大綱の主な成果 3

【幼児教育の推進】

- 未来を担う子どもたちの感性や協調性、粘り強さなどの能力を育むため、幼児期から文化・スポーツに取り組む教育を推進します。
- 就学前の子どもたちを滑らかに 小学校 へつなげることが重要です。家庭における生活習慣をしっかり身につけ、遊びを通しての 子どもの育ちや学びの連続性を踏まえて、保育園や幼稚園での教育の充実を図っていきます。

主な成果

- 区立高島幼稚園で3歳児保育・預かり保育・弁当給食などを開始
- ポロニーヤ絵本館をはじめ、各地域図書館で絵本の読み聞かせを行い、子どもが本を好きになる契機を作出
- 保幼小中一貫環境教育を推進
- 「子育て応援児童館CAP'S」として、年齢別プログラムや各種子育て相談事業を実施し、乳幼児親子の居場所機能や相談機能を充実

現教育大綱の主な成果 4

【地域と共に学び合う教育の推進】

- 区民の 学び続けたいという願いに応えるために、生涯学習社会へ向けた支援を充実させ、地域と家庭の教育力の向上をめざします。
- 板橋区には、各地域に子どもたちが必要とする多様な資質・能力をもった方々があります。そうした方々に参画していただけるしくみをつくり、地域の教育力向上に努め、「地域が支える教育の板橋」を実践します。
- 地域の人々が、結びつきを 強め、地域の課題に積極的に取り組むことにより、コミュニティの活性化が図られるよう、施設整備を含めた生涯学習環境を計画的に整備していきます。

主な成果

- 区民の多様な学習意欲に応えることを目的に「板橋グリーンカレッジ」を開校
- 「板橋区コミュニティ・スクール(iCS)を区内全小中学校で実施
- 中央図書館が「絵本のまち板橋」の発信拠点として取組を推進

現教育大綱の主な成果 5

【文化・スポーツの推進】

- 文化財や伝統芸能を保存・継承し、広く区民に伝え、郷土板橋への愛着と誇りを深めます。
- 生涯にわたっての健康で豊かな心を育むため、体験活動や文化・スポーツに触れ合う機会を大切にします。
- 板橋区スポーツ推進ビジョン2025や板橋区文化芸術振興基本計画2020と緊密な連携をとって教育の施策に取り組みます。とくに、文化・スポーツ、体験的学びを通じて、青少年の健全育成を図ります。

主な成果

- ・区立美術館をリニューアル
(第30回BELCA賞受賞)
- ・中央図書館・ポローニャ絵本館オープン
(グッドデザイン賞受賞)
(図書館協会建築賞受賞)
- ・「陸軍板橋火薬製造所跡」が国の史跡に認定、旧粕谷家住宅が都の有形文化財に指定
- ・区立美術館のイタリア・ポローニャ国際絵本原画展をはじめとする絵本のまち事業を実施
- ・アーティストバンクいたばしを新設
- ・あずさわスポーツフィールドオープン
- ・植村記念加賀スポーツセンターリニューアルオープン(植村冒険館併設)
- ・オリンピックによるオリンピック教室を開催
- ・スポーツマッチングテストを開催

令和6年度総合教育会議「教育大綱の改定等に関する協議」主な意見

【区長】

- 平成28年1月の教育大綱策定以降、「子どもたちを取り巻く環境」、また、「義務教育学校のあり方」など、教育行政には大きな変化が起こっていると感じている。そこで、新たな「板橋区基本構想」と「板橋区基本計画」の策定にあわせて、私は「板橋区教育大綱」の改定の必要性を強く感じている。
- 本日、開催する「総合教育会議」においては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、地方公共団体の長と教育委員会が、教育行政について、協議・調整を行い、両者が教育施策の方向性を共有するなど、連携体制の強化を図るために設けられている会議である。特にこの法律の規定により定めている、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」である「板橋区教育大綱」の策定に関する協議は、大変重要なものと考えている。
- 今年度と来年度の板橋区総合教育会議では、令和8年度からの施行を見据えた教育大綱の改定について、教育委員会の皆様と協議を行っていきたい。

【区長】「ウェルビーイングの実現と教育行政システムのグレート・リセットについて」

- 板橋区の子どもたちが、ウェルビーイングを実現しながら、自分の人生をしっかりと歩み、社会的自立を果たせるようになるためには、義務教育学校のあるべき姿が、時代に合わせて変化をしていく必要がある。同時に、一昨年度の総合教育会議でも協議したように、子どもたちには学校以外にも居心地が良く、安心して過ごすことができるような広義の居場所があることが大変重要である。
- 学校教育の分野での大きな課題の一つは、板橋区の不登校の児童生徒が1,000人を超えたことである。理由については、一人ひとり様々だと思うが、従来の「学校」というシステムでは受けとめることができないような子どもたちがこれだけいるということは、考え直す必要がある。
- 居場所については、一昨年度の総合教育会議の中で、小豆沢体育館室内プールにおいて、板橋区体育協会が板橋区水泳連盟と東京ドームスポーツの協力を得ながら、幼児から小学生を中心にスイミングクラブを運営している事例と、板橋こども動物園や高島平分園において、小学3年生から中学生までを対象にして、放課後や学校休業日に1年を通して、動物のお世話や、接客体験を行っている子ども動物クラブの取組も紹介した。
- この事例を通じて伝えたかったことは、居場所として重要なことは、ただの「場所・スペース」を用意するものではなく、「多くの仲間や支えてくれる人との出会いや、成功・失敗を繰り返しながら成長していく」、こういった「社会を生き抜くために必要な力を蓄える経験を得る場」が重要ではないか。
- このような、「学校以外でも、子どもたちがウェルビーイングを実現すること」の重要性は、ここ数年でさらに高まっていると感じている。また、そのような多くの大人の目で見守られながら、安心して過ごすことができた子ども時代を板橋区で過ごした経験が、「板橋」への郷土愛の心を育む源泉に

なるのではないか。

- ・ 子どもは大人の姿を見て成長するものである。例えば、今年の1月に、「板橋区かわまちづくり基本構想」というものを発表した。従来の河川敷の活用方法の枠を超えた「自然体験型アーバンリバーパーク」というコンセプトを示している。ここでは、子どもはもとより、大人も遊ぶことが可能であり、自然・環境・生物多様性を学んだり、屋外体験ができるなど、生涯学習の新たな実践の場が生まれると考えている。また、開園準備を進めている史跡公園については、重要な産業遺産の保存という使命を果たしながらも、過去をたずね、それをヒントに新しい技術や道理を見つけ出す「革新」を通して、板橋区の新しい未来を創るきっかけの場になり得る可能性を秘めていると感じている。また、生まれ変わった区立中央図書館は、学び続ける大人を引きつけながら、年間86万人という多くの人の流れを新たに作り出し、上板橋地区の再開発事業のまちづくりの加速化を促している。さらに、隣接する教育科学館については、老朽化の課題を抱えているが、これまで果たしてきた役割に限定されることなく、改築を行うことによって、子どもたちはもとより、大人のリスキリングにも新たに寄与できるかもしれない。区立中央図書館との相乗効果によって、上板橋地区のまちづくりのブランディングにもつながっていくと考えている。ここまで、従来の事業や施設、これまでにない視点を加えて、新しい価値を生み出すことができた話をしてきた。これらには、重要な共通点があると思う。それは、従来の価値観や考え方を一度リセットして取り組むという考え方である。
- ・ 世界経済フォーラムが毎年開催する国際会議において、ダボス会議というものがある。この「ダボス会議2021」においては、コロナをきっかけとした様々な制度矛盾の露呈を受けて、世界を動かすあらゆる社会経済システムを見直す必要性を訴える「グレート・リセット」という考え方が提唱される予定であった。皮肉にもダボス会議2021は、コロナ禍により中止となってしまったが、板橋区においても、「不登校児童生徒の1,000人超え」といった象徴的な事象を重く受け止め、学校教育、社会教育を問わず、不登校対応のようなものから教育施設に至るまで、区の教育行政に関するシステムの、まさに「グレート・リセット」が必要ではないかと感じている。
- ・ 次期教育大綱においては、このような視点で、板橋区の教育、学術及び文化の振興に関する新たな方向性を示してまいりたいと考えている。

【高野委員】「まちや地域への愛着を育むことの重要性について」

- ・ 板橋区では、不登校児童の増加など学校生活で困難を抱えている子どもが増えていることを踏まえ、誰一人取り残さないための居場所づくりを進めており、ハード面ではほぼすべての学校内に教室以外の居場所をつくることができた。しかし、スペースの関係や運用面での支援にあたる人の不足が課題となっており、恒常的、長期的に見守りを行う人材の確保が必要となっている。
- ・ 子どもたちの利用の仕方や抱える問題は、多種多様、複雑なため、一人ひとりの子どもに親身に寄り添うことが、求められていると感じている。
- ・ 先生方の負担を少しでも軽減し、困難を抱えている一人ひとりの子どもに向き合い、寄り添うためにも、地域の方々の支援を充実させていくことが重要である。

- ・ 「推しの木プロジェクト」は、自分の住むまち、地域を好きになり、誇りに思うような郷土愛、シビックプライドの醸成を目指し、子どもたちが学校と地域への愛着を育む教育プログラムである。対象を広げていくことで、子どもたちの興味関心が広がり、自分の住む板橋区を好きになり、誇りに思う気持ちが育っていくのではないかと思う。
- ・ 子どもの学びや成長を支える人や環境の充実を図ることが、現在検討に入った板橋区教育ビジョンでの2035年の板橋区を見据えた際に必要な取組ではないかと考える。

【青木委員】「教育のDXについての現状、課題について」

- ・ 1人1台端末になり、今の小学生・中学生はデジタルネイティブとして情報活用能力は上がってきている。しかし、情報モラル、情報倫理に抵触するような事例も散見され、情報モラル教育を徹底すべきと感じている。
- ・ 一方で、学校の中では、DXにより、様々な効率化ができてきた。例えば、個別最適化に向けた学びにデジタルツールが非常に活用されて、学校への信頼感が高まっている。対面でない形が、不登校の場合の対応や学びにも活用でき、教員と生徒の関係も円滑に進むようになってきた。
- ・ また、最新デジタル技術を、ゲーム感覚で学習に活用できる学びや4Dプリンターのような全く新しい技術を授業で取り入れると、子どもたちの興味関心につながる。先生方は、効率化して空いた時間で、今の社会、未来の社会に対しての研修を受けてもらうということが、いい方向に繋がると思う。
- ・ コロナ禍を契機に、1人1台端末で教育分野での活用が進んでいる状況だが、便利、効率化ということだけではなく、学校は、集団の中での学びが本来の目的を見失うことがないように、教育のデジタルトランスフォーメーションを推進することが、教育活動の基盤を充実させ、さらにはウェルビーイングの実現につながると思う。

【野田委員】「多様な居場所づくりとコミュニティスクールについて」

- ・ 安心安全な多様な居場所が確保されてきたと実感しており、今後は、その居場所をどう機能化して有効利用していくかが、これからの課題である。
- ・ 不登校児童が、地域の高齢者の皆様からの声かけによって、近隣の公園を地域の方と一緒に毎朝掃除をすることができるようになり、大きな一歩となったという事例があり、非常に感動した。必ずしも、学校に足が向かなくても、周りの人と話をする機会を得る貴重な体験をしたことは大事だと考えている。
- ・ ICS・板橋コミュニティスクールには、推進委員会の委員として立ち上げから参加している。委員については、地域の学校に思いを持つ、多様なスキルを持つ健康な方々が、子どもたちの目線に立って、動いてくれている。この組織が集まると、自然と議論が始まるという理想的なコミュニティスクールである。
- ・ コミュニティスクールでは、メンバーの入れ替えもあるが、これまでの経験を生かして、学校の困りごとと一緒に考えてくれる地域の力が、真の私たちが目指すコミュニティスクールだと思っている。さらに充実するために努力して意見交換や情報共有をしていきたい。
- ・ 喫緊の教育課題や個別のニーズにきめ細かに対応した居場所を作ること

で、子どもの権利を守り、誰1人取り残さない支援を行うことが、「子どものウェルビーイング」につながるのではないかと考える。また、コミュニティスクールを通じて、保護者や地域の人がつながり、一体となってより良い学校づくりを進めることが、「家庭や地域のウェルビーイング」の向上に寄与すると思う。

【善本委員】「子ども一人ひとりの発達段階、特性、興味関心に応じた学びについて」

- ・ 「子どものウェルビーイング」を実現するには、子どもが社会に出て自立する力を身につけることが必要である。これからの時代は、自分の考えを適切に表現することや自己調整して改善する力が、未知の課題に出会ったときに、仮説を立て、自分だけでなく他の人と協同的に物事を解決していく力が求められている。
- ・ 児童生徒の学校生活で起こった小さな悩みやつまづきを、小さいうちに支援する体制を学校が整えると、学びが苦しいものではなく、失敗を恐れずに安心してチャレンジできるようになる。また、区立中央図書館や区立美術館のような興味関心を広げる機関の活用も大事である。
- ・ この数年の災害や感染症に対しては、学校の危機管理体制を整えながら、児童生徒自身の危機管理能力も高めていくことを忘れてはならない。
- ・ 教員の働き方改革も、教員の資質が向上して学びの質的転換への話題が展開されることが大切である。
- ・ 子ども一人ひとりの良さや可能性を引き出し、伸ばす学びを推進することが、「子どものウェルビーイング」の実現に重要である。また、教員が本来業務に集中できる環境を作り、「教員のウェルビーイング」の実現も大切である。

【長沼教育長】「生涯にわたり共に学び支え合う教育の推進について」

- ・ 教育は、「人が幸せに生きるためにある」と考えており、学ぶこと自体に価値がある。さらに、その学んだことを他者や社会のために生かすことで、個人や社会が幸せになり循環していくことが、ウェルビーイングと同じととらえられる。教育長としての3年間の任期で考えている取組のキーワードは多様性であり、区民の多様化するニーズにいかに関行がこたえていくかにあたって、4つのことが重要になる。
- ①「子ども一人ひとりの良さや可能性を引き出し、伸ばす学びを進めていくということ」

幼児期においては生きる力の基礎づくりを行うことが大切である。学びにも多様性を持たせ、興味関心に応じた学びの充実を図り、豊かな人間性や社会性を育みつつ、体力向上や心身の健康づくりを進めることが大切である。個別的な支援を要する子どもにも寄り添い、誰1人取り残さないきめ細やかな教育を充実させていきたい。学びの多様化学校の開設の研究にも入っていききたい。不登校対策及び不登校を生まない教育事業を進めていく授業革新の必要性を感じている。

②「子どもの学びや成長を支える人や環境を充実させるということ」

教員自身の働き方改革も進めるが、部活動の地域移行も、地域と連携協働しつつ、ICSの力も借りながら素地を作っていく。また、家庭教育への支援も

しっかり行う必要がある。子どもが安心安全に過ごせる第3の居場所の充実も図っていく。また、ハード面でも魅力ある学校の整備を引き続きやっていき、時代のニーズにマッチした教育施設整備の検討も始める必要がある。

③「生涯にわたり、学び支え合う教育を推進していくということ」

幼児期から始まり、社会人になってからも学びを止めないという習慣、文化が、日本では定着していない部分もあるため、もっと充実させる必要がある。読書活動の推進や絵本文化をさらに展開させていくということも、教育委員会として取り組んでいく。また、文化財の保存活用も重要視していきたい。

④「教育活動を支えるための基盤を作る」

コロナ禍でGIGAスクール構想が前進して、授業や学校の校務はICT抜きにはできなくなってきたが、不十分な面もあり、学校のDX化を進めていく必要がある。社会教育分野でも講座講習会をオンライン含めて行う必要がある。この基盤作りは、ICTに限ることなく下支えするようなことを、先ほど伝えた3つの取組を行いつつ推進していく。

- ・ これからの10年は予測不可能な状況であり、10年後の学校の姿は今と全く変わっているかもしれない。教育行政にとって大変な時代だからこそ、しっかり区民に提案していきたい。改めて、教育委員会としても、私が掲げた「教育は人が幸せに生きるためにある」を共有しながら、教育行政を進めていきたい

【区長のまとめ】

- ・ 今回の会議で共有した区の教育行政全般に対する課題、方向性、考え方について確認ができた。それを踏まえて、来年度の総合教育会議に向けて、議論の内容をよく整理したうえで、新しい教育大綱の骨子を作成し、お示しさせていただきたい。

教育長及び教育委員の皆様には、ぜひこれからも教育行政の進展にさらなるご尽力を賜りたい。